

# 情報連絡員報告総括表（令和5年7月分）

三重県中小企業団体中央会  
連絡員総数 40名  
回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況		
		増 加	不 変	減 少	増 加	不 変	減 少	上 昇	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	上 昇	不 変	悪 化	増 加	不 変	減 少	好 転	不 変	悪 化
製 造 業	食 料 品		4			4		1	3		1	3		1	3			4		1	3		1	3		1	3	
	織 維 工 業	2		1	1	2		2	1			3			3			2	1		3		1	2			1	2
	木 材 ・ 木 製 品			1		1				1			1			1		1			1			1				1
	紙 ・ 紙 加 工 品		1	1	1		1		1	1		1	1		1	1		2			2		2			1	1	
	印 刷			1		1		1				1			1		1			1			1			1		1
	化 学 ・ ゴ ム																											
	窯 業 ・ 土 石 製 品	1	2			3		2	1			3			3			3			3			3			2	1
	鉄 鋼 ・ 金 属	1				1			1			1		1			1			1			1			1		
	一 般 機 器	1	2		1	1	1	3			3			2	1		3			3			2	1		3		
	電 気 機 器			1			1		1			1			1			1			1			1			1	
	輸 送 機 器	1				1		1			1			1			1			1			1			1		1
	そ の 他																											
小 計		6	9	5	3	14	3	10	8	2	2	15	3	3	12	5		18	2	1	13	6	2	16	2	1	11	8
非 製 造 業	卸 売 業		2			2		1	1			2			1	1		2					2			1	1	
	小 売 業	2	3	1		5	1	3	3			5	1		3	3		3	3				6			3	3	
	商 店 街	1			1			1			1			1			1						1			1		
	サ ー ビ ス 業	1	2	1				1	3			4		1	2	1		3	1				3	1		3	1	
	建 設 業	1	3					1	3		1	3		1	3		1	3					4			1	3	
	運 輸 業	1							1			1		1			1						1			1		
	そ の 他		2							2		2			2			2					2			2		
小 計		6	12	2	1	7	1	7	13		1	18	1	4	11	5	1	15	4				19	1	3	12	5	
合 計		12	21	7	4	21	4	17	21	2	3	33	4	7	23	10	1	33	6	1	13	6	2	35	3	4	23	13

## 最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和4年7月～令和5年7月)

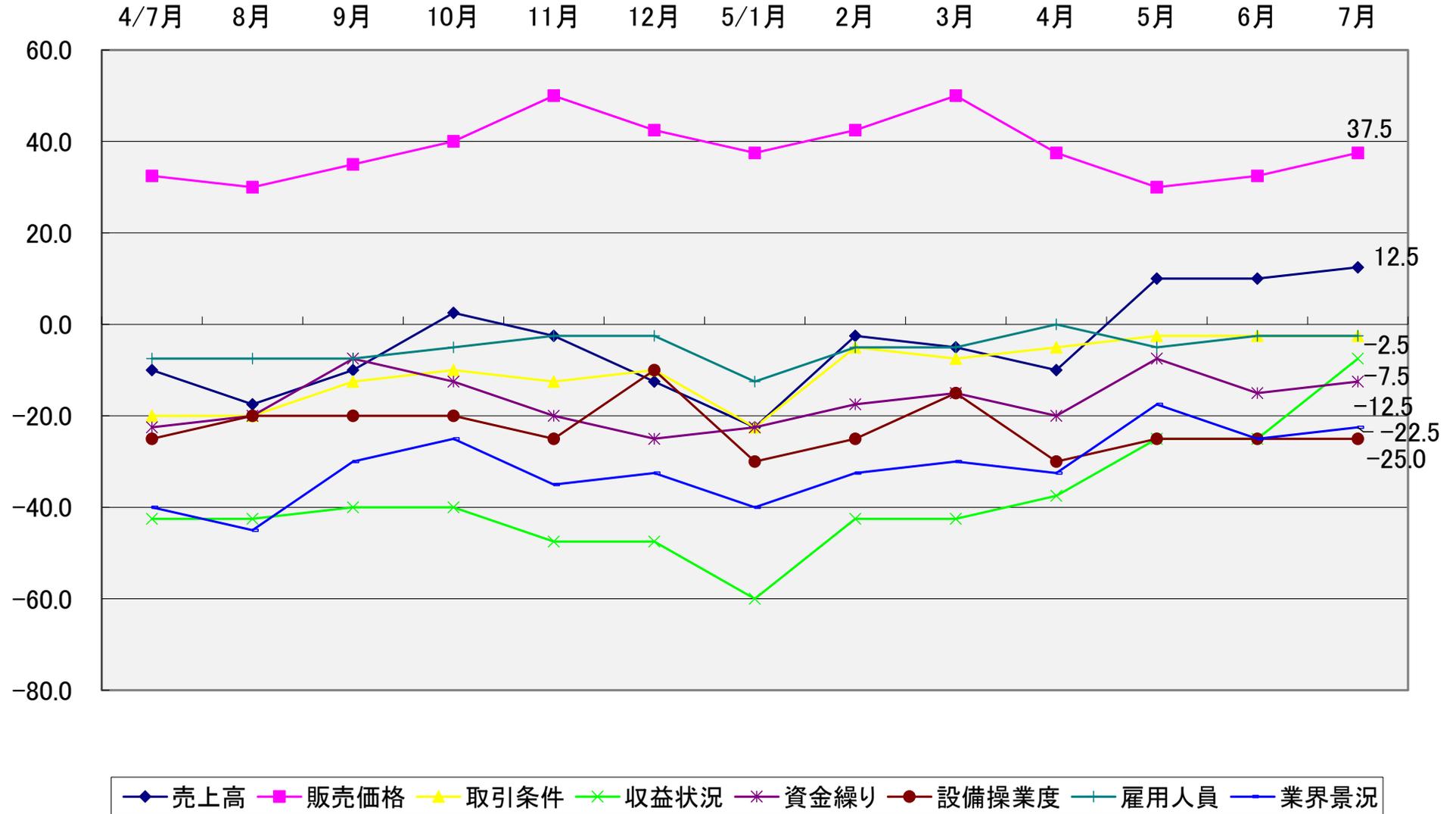
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	4/7月	8月	9月	10月	11月	12月	5/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	増減
売上高	-10.0	-17.5	-10.0	2.5	-2.5	-12.5	-22.5	-2.5	-5.0	-10.0	10.0	10.0	12.5	2.5
販売価格	32.5	30.0	35.0	40.0	50.0	42.5	37.5	42.5	50.0	37.5	30.0	32.5	37.5	5.0
取引条件	-20.0	-20.0	-12.5	-10.0	-12.5	-10.0	-22.5	-5.0	-7.5	-5.0	-2.5	-2.5	-2.5	0.0
収益状況	-42.5	-42.5	-40.0	-40.0	-47.5	-47.5	-60.0	-42.5	-42.5	-37.5	-25.0	-25.0	-7.5	17.5
資金繰り	-22.5	-20.0	-7.5	-12.5	-20.0	-25.0	-22.5	-17.5	-15.0	-20.0	-7.5	-15.0	-12.5	2.5
設備操業度	-25.0	-20.0	-20.0	-20.0	-25.0	-10.0	-30.0	-25.0	-15.0	-30.0	-25.0	-25.0	-25.0	0.0
雇用人員	-7.5	-7.5	-7.5	-5.0	-2.5	-2.5	-12.5	-5.0	-5.0	0.0	-5.0	-2.5	-2.5	0.0
業界景況	-40.0	-45.0	-30.0	-25.0	-35.0	-32.5	-40.0	-32.5	-30.0	-32.5	-17.5	-25.0	-22.5	2.5

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

### 最近の主要指標の前年同月比DIの推移



報告者名  
報告年月

三重県中小企業団体中央会  
令和5年7月

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品		漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足が続いている。今年度は例年並みの収穫が得られ、ほぼ例年並みの漬け込みが行われている。また、販売状況においても、新型コロナウイルス感染症の規制緩和により旅行者が増加し、お土産物の需要がかなり回復してきており、コロナ前の状況に戻ってきている。一方で、ウクライナ戦争の影響及び円安による諸資材の高騰により、製造コストに影響が出ており、特に電気代が約50%値上がりしているが、その分を価格に上乗せする訳にもいかず、経営を圧迫している。また、7月19日13時からのオンライン情報交換会は都合により中止となったが、9月にもオンライン会議を予定している。
		醤油味噌	夏休みに入り、コロナ禍で中止になっていたお祭りやイベントが復活してきた。イベントに合わせ飲食需要も高まってきている。一方で、価格改定(値上げ)が進むことで各社の小売向け出荷が低調になってきている。業界も2回目の値上げ実施が始まっている。大手量販店はPB商品の販売で売上を伸ばす傾向にあり、受託メーカーは益々厳しい環境である。油脂類は値下げして、売上確保に動いている様子で、安値が出始めている。物流の2024年問題がクローズアップされてきており、大手メーカーはリードタイムの見直しや共同配送等の対策を打ち出している。これらにより、組合員への原材料納期の影響が来年以降出てくるものと思われる。
		他に分類されない食料品 製造業	最低賃金が上がる中、パート従業員の社会保険の加入条件が拡大し、今後どうしたらいいのかが悩みである。パートとしては年間所得が130万円前後の方が多く、しかも扶養に入る事を希望される。労働時間の調整をすると人員を増やす必要があり、これから考えていかなければならない問題である。
		製麺	観光施設も客足が3年前に戻ってきた。毎年、猛暑が続いており、夏の商品がよく売れるようになってきた。今年は、各組合員で冷やしの伊勢うどんを販売していて、売れていると思われる。伊勢うどんの値上げが9月からできるようになってきた。他商品については、まだまだ値上げができないようであるが、今期を逃さず値上げして頂きたい。組合員が1件廃業してしまった事は残念である。
繊維工業		衣料縫製	人件費の上昇は工場にとっては厳しい。諸物価の値上がりにより、全ての物の値段が上がり、電気量は2倍以上になった。また、ガソリン、ミシン部品も値上がりし、経営を悪化させている。
木材・木製品		木材	需要低迷が続く中、依然として燃料費、輸送費の高騰が経営を圧迫している。
製造業		木材チップ	原材料価格が高止まりしているため原料確保が課題である。
	紙・紙加工品	古紙	7月の仕入れ量：段ボール・約95±2%、新聞、チラシ・約88±4%、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約92±6%である。有名観光地のインバウンド需要や花火大会・夏祭り等の人出と消費はあるが、一般的な古紙の発生においては電気代、燃料等の生活インフラコストの値上げで食費や遊覧費等の節約が必須となり、顕著な様にも感じられ数字に表れているように思う。製紙会社の生産は消費が激減のため、製紙原料古紙のメーカー在庫は現在も一杯で、製紙原料古紙の発注量もマイナス約10%であるが、大都市の古紙発生地は、常時輸出も含めて地方の業者の古紙在庫がやや多い程度のものである。製紙会社様から近距離運賃の値上げをしてもらったが、国際市況等をもとに8月より段ボール古紙の値下げの連絡があった。当業界も必要な費用(コスト)を得ながら人手や人員の確保をし、業務を遂行しながらAI・IT・DX化の投資が必要なのに今のタイミングで古紙の値下げは訳が分からない。ゴミ等の置き去りや古紙の持ち去りの行為も無くなり、古紙持ち去り行為の撲滅のための立法化は必要と考えるが、壁は業界内にあるのかも知れない。より人に優しいきれいな社会づくりに役立つこととなる。
印刷		印刷	これまで3年間中止してきた親睦イベントを月末に開催することができた。四日市支部・津支部・伊勢支部・牟婁支部から、約90名の参加があり交流を深めることができた。それ以外にも青年部においても勉強会を計画するなど、本来の組合活動を取り戻しつつある。7月期は、夏場は例年低調な動きであるが、今年は特に低調な動きだったと感じる。資材費・燃料費他において、下がる兆しが見られないこともあり、動きは鈍化している。
窯業・土石製品		伊賀焼	各組合員は少しずつ忙しくなっているように感じる。ただ、燃料費や原材料費の値上がりには頭を悩ませている。インボイス制度の導入に悩んでいる業者もいるようである。
鉄鋼・金属		鍍金	業界の生産額は、前月と比べてやや増加傾向である。全体的に上向き傾向であり、今後に期待できる。

報告者名  
報告年月

三重県中小企業団体中央会  
令和5年7月

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
非 製 造 業	一般機器	四日市市	各企業により考えの温度差があるが需要、業績は停滞気味である。これまでの半導体不足や紛争の影響の他に急激な円安、人件費、輸送費の上昇も響いている。販売価格が上昇できても経費の転嫁のみで、人件費上昇分を反映させるのが難しいことと、給与アップでも人が集められない影響もみられる。コロナ規制解除や半導体の需給緩和が工業製品の需要増、設備投資につながっていくことを期待したいが、現時点で状況は変わっていない模様である。
		津市	先月と特に変わらない状況である。長期内示は10月以降は増えるという情報があったが、最近の情報では受注がゼロになったものがある。得意先の情報によると、中国、韓国で車が売れていない事が原因とのことである。但し、国内向けは昨年のような半導体不足による生産調整はなく、受注は増えてきている。ここ連日の暑さのため、冷房もフル稼働しているため、光熱費もかなり増加し、利益減となる恐れがある。
		伊勢市	製造業の中では、工作機械は少し良くなってきている。盆休みの設備改造の関係も増えてきた。国内の自動車関連は未だ厳しいが、海外向けは良くなってきている。全体的には昨年のコロナ時期より悪い。今年はこの状況が続くと思われる。
	電気機器	鳥羽市	先月より受発注が激減し、昨年比として25%ダウンで推移している。一時的な動きかと思うが、厳しい状況が続いている。
	輸送機器	伊勢市	エネルギーコスト、資材調達コスト等の上昇分について価格転嫁が進んでいるケースでは採算面は好転につながっている。
小売業	青果	青果	野菜前半：大雨や日照不足で果菜類を中心に入荷が減り、愛知県産のトマト、青森県産の人参もやや高値になった。一方、北海道産、青森県産の大根は安くなっている。長野県産のレタス、愛知県産の長なすは順調に入荷でお手頃価格となっている。キャベツは高値が続いている。 野菜後半：日照りが続いた影響でほうれん草等一部の品物の入荷が減っている。高値が続いていた長野県産、群馬県産のキャベツが値下がりしてきた。大根、ミニトマト、人参、ブロッコリー等、北海道産の品目が多く入荷するようになってきた。 果物前半：種類も豊富になり、愛知県産、島根県産のスイカが入荷しピークをむかえている。桃は山梨県産、愛知県産が大玉傾向で安定して入荷している。愛知県産、茨城県産のメロンは終盤になってきたが、北海道産、青森県産の入荷が始まり、味も良い。 果物後半：山梨県産、長野県産、愛知県産の桃は今が最盛期である。ブドウは山梨県産のピオーネ（露地物の）の出荷が始まった。山形産デラウエアの入荷も増える見込みである。スイカは夏本番を迎え、長野県産、JA松本ハイランドスイカが入荷し、味も良くシャリシャリした食感を楽しんでほしい。
		自転車	昨年までのコロナによる外出制限もなく、今年は猛暑も天候に恵まれながらも紛争の影響かアルミや鉄の価格が値上げとなり、自転車だけでなく商品市況が高騰、日本全体の物価上昇が加速し、個人消費を下押ししている。先月にも発表したが、令和4年の新車販売台数が対前年1,106,562台の減となり、県内でも同様の数字を示した。(7月は前年比81.1%)景気が悪く新車が売れないと同様に自転車盗の街頭防犯罪は、平成15年以降一貫して減少してきたところ、戦後最少となった令和3年を大きく上回り、前年比14.4%の増加件数となっている。今後は各関係機関及び各団体との情報交換や交流を行う予定である。(中部ブロック会)8月上旬予定である。
		電器	梅雨明けの宣言が曖昧な感じで夏商戦へ入った。今年の気温の上がり方は通年ピークとされるところから始まって、まだまだ上昇していく異常気象な状態で、われわれの業界としてはエアコンをはじめとする空調機器が動き始めた。去年と比較しても販売台数は多くなったと思われる。価格高騰のあおりを受けている状況と工事費、材料費も値上がりの傾向から低価格モデルの実売価格は底上げしている。それでも以前のように「少しでも安く買う」事がベストという考えも少なくなってきたようにも感じている。
		石油	7月に入り、サービスステーション業界にとっては繁盛期の夏商戦が始まり、8月に入っていく。 一方で、人出不足や従業員の賃金アップさらには電気代をはじめとした様々なコストアップも続いている。加えて、燃料油価格激変緩和対策事業の補助率の削減率は高まっているものの、この間に原油価格や為替等の変動もあり、補助額自体は6月第1週が12.5円だったのに対して、7月第2週においても10.1円となっている。原油価格や為替の変動は見通せないが、現状で考えれば、10月には現行よりもう一段と高い卸価格（現段階の試算では10円高）になることを踏まえた適正なコスト転換が必要である。 燃料油価格激変緩和対策事業も9月末で終わり、サービスステーション事業者は供給に必要なコストは躊躇することなく転嫁し適正利潤を確保していくことが大切である。

報告者名  
報告年月

三重県中小企業団体中央会  
令和5年7月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
	スポーツ	組合も7月1日から新しい期に入った。前期は大きなイベントもなく、前年同期に比べて収入減だったが、脱退者もなく無事に進んでいるようである。毎日テレビで猛暑のことが報道されるが、当業界は雨や台風の影響を受けるが、暑い日が続くことは問題がない。
商店街	熊野市	夏のイベントは、夏祭りをはじめ、この地方でも4年ぶりに一大イベントでもある花火大会も復活する予定で、徐々に活気が出てきている。また、少年ソフトボール大会を誘致したスポーツ集客事業も月末よりはじまり、宿泊関係も賑わいを見せている。
サービス業	旅館	7月中旬迄は閑散としていて、3連休の中旬位より夏休みに入って盛況になるのが通年の状況であるが、今年は台風の影響もあってか、海水浴場も人出が少ないようである。7月全体では、対前年比110%、2019年同月比は70%程度であった。また、9月以降の予約状況は全国的に落ち込んでいるような情報が入ってきてるので需要喚起策を早急に実行する必要がある。マスコミ報道ではコロナは終わったかのように発信しているが、実情はまだ戻っていない。業界挙げて訴えてゆく必要性を感じている。
	警備	コロナウイルスは5類に移行され、各種イベントが少しずつ開催され、まだまだ規模的にも従来には戻っていないが、受注が増えてきている。
建設業	内装工事業	7月は対前年同月比で大幅な増加となり、売上は倍増であった。8月はお盆休みもあり、例年売上は落ち込むので、一息つくと思われる。
	水道工事業 (亀山市)	引き続き資材等の納期遅れ、価格上昇が続いている。民間工事の受注、公共工事についても見積価格について不安な面がある。
運輸業	トラック	軽油価格は先月に比べて2円程上昇しており、依然として厳しく経営を圧迫している。電子・デバイス部門は前月に比べ大きく落ち込んだため、関連する輸送も減少し、厳しさを増している。自動車部門については、好調が続いており、関連する輸送も好調となっている。スーパー・小売部門については、個人消費が回復基調にあることから、スーパーの売上が伸びており、関連する輸送も増加傾向となっている。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	いつも情報提供をありがとうございます。まだまだ厳しい状況は続いているが、前向きに取り組んでいく。
繊維工業	衣料縫製	技能実習3号の技能検定2級(実技試験)を県内で実施できるようにしてほしい。
繊維工業	テントシート	国は幼稚園や保育園の園児に有害な紫外線から身を守るため、日よけテント等の設置に補助金等を出してもらいたい。
一般機器	四日市市	工業製品の需要の停滞は2023年内は続く見込み、物価や光熱費さらに人件費の増大も見込まれる。今後の状況を注視しながら、きめ細やかな支援をお願いしたい。
サービス業	旅館	国あるいは県の新たな旅行支援事業の創設について、ご尽力賜りますようお願いしたい。(奈良県は既に22県ではお盆以降の継続も決まっている。)